地域生活（身体）

事例概要

【基本情報】

Ａ氏　男性 １９歳

障害名：脳出血による左片麻痺

身体障害者手帳：１種２級 左上肢機能障害（３級）・左下肢機能障害（４級）

家族構成：父（５２歳会社員）、母（５０歳パート）、姉（２２歳・大学生）弟（１６歳・高校生）。全員同居。関係良好。

【生活歴・病歴】

地元の小・中学校・高校を卒業。高校から吹奏楽を始めた。大学文学部英文科（現在休学中）入学後、吹奏楽サークルに入り（主にトロンボーンを担当）、熱心に取り組み、友人も多かった。自宅から電車通学である。自動車免許も取得している。

平成27年10月、大学１年（１８歳）の時に自宅で倒れ、救急病院に搬送、開頭血腫除去術施行。急性期治療後、回復期リハビリテーション病院に転院し、リハ施行し日常生活は自立した。

現在の生活は、自宅でテレビ鑑賞やインターネット閲覧しながら過ごす日が多い。

【医学的所見】

原疾患：脳動静脈奇形に起因する脳出血

ブルンストローム・ステージ：上肢 Ⅳ、手指 Ⅳ、下肢 Ⅴ

日常生活自立。移動は、短下肢装具装着＋Ｔ字杖で単独歩行及び階段昇降可能。

現在、６カ月に１度の定期受診で術後経過観察中。抗てんかん薬服用。

【相談経緯】

退院後、家庭復帰するが、閉じこもりがちであり一日中何もしないため、家族が心配して当事業所に利用相談があり、本人も利用希望されている。

【本人・家族の希望】

本人：訓練を受けて、左片麻痺を改善したい。将来のことを考えられない。

家族：退院時には日常生活は自立したので規則正しい生活に努め、自分で何でも行うように言われたが何もしようとしない。自宅でも家事等を担うこともこれから先に役に立つ気がする。もっと社会活動に参加して、できれば復学して卒業後は就職して欲しい。